

子どもの貧困を保育者および教職員はどう捉えているか（1） —貧困状況下の子どもの状態や子どもの困難の捉え方について—

○飯田昭人（北翔大学）
加藤弘通（北海道大学）

水野君平（北海道大学）

キーワード：子どもの貧困，貧困状況の捉え方，

問題と目的

本研究では、「子どもの貧困対策に関する大綱」に謳われている「教育の支援」に焦点を当て、保育現場や学校で働いている保育士や教職員等を対象に、子どもの貧困への意識について、(1)子どもの貧困状況の捉え方、(2)貧困状況にある子どもの困難の捉え方の2点について明らかにするために、支援者に向けての質問紙調査を実施した。

方 法

調査協力者と調査時期

A 市内の小学校全 18 校，中学校全 8 校（私立中を除く），保育施設（保育園，幼稚園，認定こども園，小規模保育施設，事業所内保育施設，家庭的保育施設）27 施設の合計 53 施設の保育関係者，教職員を対象にした。有効回答数は，小学校 15 校 283 件（72.0%），中学校 8 校 188 件（82.8%），保育施設 18 施設 213 件（56.8%），合計 41 施設 684 件（68.7%）であった。調査時期は 2017 年 12 月から 2018 年 1 月であった。

調査内容

「滋賀県『子どもの貧困』対策のための支援者調査」（滋賀県・龍谷大学，2016）を参考に調査票を作成した。まず「子どもの貧困状況の捉え方」に関する 9 項目を尋ねた（回答は「まったく深刻ではない；1 点」—「非常に深刻である；5 点」の 5 件法）。また、「貧困状況にある子どもの困難についての捉え方」に関する 13 項目を尋ねた（回答は「まったく当てはまらない；1 点」—「とても当てはまる；5 点」の 5 件法に、「子どもの年齢が低くてわからない」も設定した）。その他の質問項目も尋ねたが，本報告では省略する。

結 果

「子どもの貧困状況の捉え方」および、「貧困状況にある子どもの困難についての捉え方」（因子負荷量の低さやダブルローディングで 5 項目を除外）について，因子分析（最尤法・プロマックス回転）の結果と各因子における α 係数，負荷量，因子間相関は Table 1，Table 2 のとおりである。

考 察

子どもの貧困の捉え方を，「基本となる生活基盤の不安定さ」と，各種支援費を受給しなければ生

活が安定しない，「家庭の経済的困窮」の 2 点に集約された。貧困状況にある子どもの困難についての捉え方において，主に「子どもの生活面から生じる心身の健康的側面」と，「子どもの学力面」に大別された。

公益財団法人子どもの貧困対策センターあすのば（2016）が，貧困問題を「貧」（低所得などの経済的問題）と「困」（一人ひとりの困りごと）に分け，家庭の「貧」を改善するだけではなく，子どもたちの「困」も支援していくことの必要性を述べている。今回，Table 1 では「貧」について，Table 2 では「困」についての捉え方を明らかにした。特に，「困」については，保育施設や小中学校というフィールド（現場）で，関係機関と連携しながら対処していくことが求められると考える。

Table 1 貧困状況の捉え方

因子間相関； $r=.49$	F1	F2
F1：基本となる生活基盤の不安定さ（ $\alpha=.88$ ）		
医療を控えている	.85	-.04
服装が適切ではない	.85	-.03
食事が十分にとれていない	.80	-.02
住環境が劣悪	.80	-.02
家事を子どもが多くする	.57	.07
教育費が十分ではない	.52	.24
F2：家庭の各種支援費の受給（ $\alpha=.85$ ）		
児童扶養手当受給	-.09	.93
就学援助費受給	.03	.77
生活保護受給	.09	.73

Table 2 貧困状況にある子どもの困難の捉え方

因子間相関； $r=.54$	F1	F2
F1：子どもの心身における健康（ $\alpha=.90$ ）		
健康面（体調不良を訴える）	.86	-.05
体力面（体力がない）	.81	-.03
こころの状態の安定性・健康	.78	-.05
園や学校での欠席が多い	.77	.02
自己表現力	.69	.08
自己肯定感・自尊心	.66	.14
F2：子どもの学力（ $\alpha=.97$ ）		
読み書き・計算などの基礎的学力	.01	.98
基礎的な学力以外の学力全般	.01	.95